

### 桐生からくり人形芝居とは

● からくり人形芝居は明治27年(1894)に桐生天満宮の御開帳の飾り物(見世物)として上演されました。江戸の伝統文化と桐生の織物技術が結び付いて、桐生に根付いたと考えられています。



● からくり人形は、祭り・山車からくり、ざしきからくり、芝居からくりの3つに分類されています。芝居からくり人形は時代とともに衰退し、現在していないものと考えられていましたが、桐生



助六由縁江戸桜

では人形や背景などが完全な形で発見されました。このような例は全国でも桐生だけであり、からくり芝居の歴史の1ページを飾る貴重な文化財に値するものであると、高く評価されています。

プロのからくり人形師が人形芝居をやっているかと思うかもしれませんが、私たちは全員桐生市民で、市民が自分の持つ知識と技能を出し合って、作り上げています。それは大変素晴らしいことだと思います。

実はこのからくり人形は明治時代の頃も、機屋の旦那集がお金を出して、そこにいた職人さんが織機などの技術をからくり芝居に応用していました。ですから、昔もそうやってプロの人形師ではない人が作っていたんです。

ボランティアで、時には自分の体を張って活動するのは非常に苦

しい面もあります。しかし、からくり人形芝居を観た方から「良かったよ」「立派だったよ」といった褒め言葉を頂くと、一度にその疲れが吹き飛ばすようにほっとします。それが私の喜びです。

**震災を乗り越え、DCへ**

3月11日に大地震がありました。が、人形もケースも無事でした。この芝居小屋は戦後の建物だったので被害はありませんでしたが、有隣館にある蔵はそれぞれ江戸時代、明治時代にかけての非常に古い建物を活用しているため、震災

に耐えられませんでした。屋根の瓦は落ち、柱は曲がり、ひびが入っているということ。今は危険な状態に認定されています。そんな状況なので、今は開店休業の状態です。

昨年のプレDCでは、普段開演していない日も開演し、北海道から九州沖縄の人まで県外の人がたくさんおいで下さり、1104人ものお客さんがいらつしやいました。今年はDCの本番の年なので、何とかして皆さんにからくり人形をお見せしたいと思っています。

これからやりたいこととしては「羽衣」など、復元しなくてはいけない人形がありますので、それらを復元していきたいと思っています。また、小中学生を対象に子どもからくり教室というものを毎年やっているのですが、子どもたちへの技術を伝承していきたいと思っています。

### 最後に一言

一期一会という言葉が、私の motto です。ですから、皆さんと出会ったその時その時を大事にして、そこから得るものをしっかりと吸収して、自分の糧にしています。

### WHO IS NEXT?

次にバトンが渡る人は誰でしょう?



次号をお楽しみに!!

「遠くへ行きたい」という番組で、桐生からくり人形芝居保存会が紹介されます。皆さん、どうぞご覧ください!

「遠くへ行きたい」(日本テレビ系列) 6月26日(日)朝7時30分~8時00分

### テレビ放送のお知らせ

山本有三著の「米百俵」という本に感銘を受けました。

### 好きな本

「二期一会」という言葉と、関東大震災時に復興計画を立案した後藤新平の「人のお世話にならぬよう、人のお世話をすよう、そして、報いを求めぬよう。」という言葉が好きです。

### 好きな言葉



## 「結集した技術で 人形に命を吹き込む」

桐生からくり人形芝居保存会 竹田 賢一さん

地域づくり人物リレーは、県内で地域づくり活動をされている方を取材し、紹介して参ります。第9回目は、桐生からくり人形芝居保存会の竹田賢一さんにお話を伺いました。



桐生からくり人形芝居保存会 竹田 賢一さん

### からくり人形との出会い

私は元々ボーイスカウトの指導者をしてながら、青少年の健全育成のために少年警察共助員を22年していました。また、ボーイスカウト日本連盟から派遣されて、ネパールや台湾、アメリカに、派遣団の団長として、子どもを引率して行ったこともありました。そういったことが、段々地域づくりに発展していきました。

昭和63年に、郷土資料展示ホールで「ふるさととの祭り展」という

展示会が開催されました。そこで出品されていたからくり人形と出会い、魅了されていきました。

当時私は、「ファッショントウン桐生推進協議会」において、新しく事業を始めようとする市民を助成する事業を担当していました。その関係で、この人形をぜひ保存、復元しようということで、平成9年11月に「からくり人形研究会」を立ち上げ、支援を始めました。

そして、私自身も組織運営の中心となりながら参加し、からくり人形芝居の発展にこれまで尽力してきました。



**市民の知識と技術を結集して**

私たちは、有隣館ビル蔵の一部を改装して作られた有隣館からくり人形芝居館で活動しています。からくり人形には、今現在で、オリジナルのものが48体、レプリカが35体あります。レプリカ人形の衣装や小道具、仕掛けなどは創意工夫し、スタッフ全員で作りました。当会にはリタイアされた方が多いのですが、自分の職業などとは関係なく、この人形芝居を観て「よし自分もやってみよう」と思って、参加してくれました。そして皆で協力して、それぞれが持っている技術と知恵を出し合っています。